



# A2ドイツ団テーマ：子どもと若者の貧困 —課題と解決に向けた取り組み—

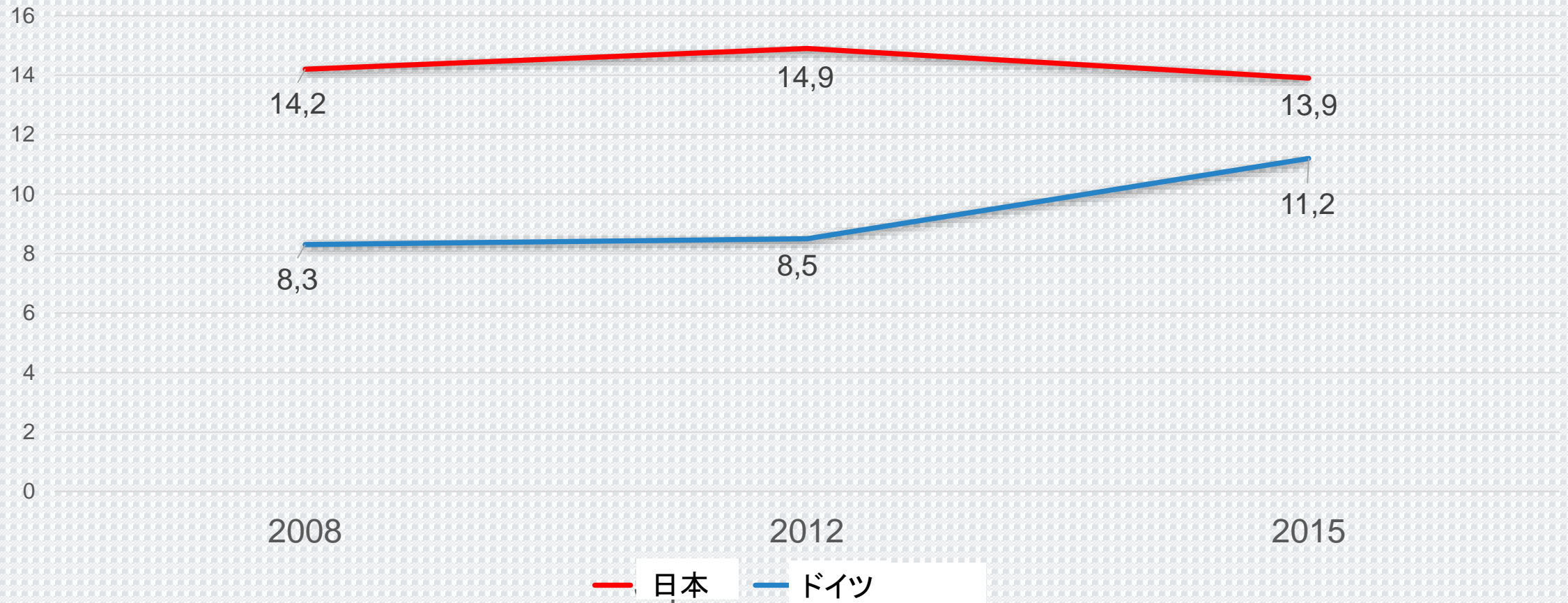
2019年度  
日独青少年指導者セミナー  
研修テーマ：社会の課題や  
変化に対応するための青少年  
を対象とした取り組み

## 発表内容

- 🌀 日本とドイツにおける子どもの相対的貧困率の比較(OECD)
- 🌀 日本とドイツにおける子どもと若者の貧困の実情
- 🌀 本セミナーにおける訪問先施設
- 🌀 貧困状態にある子どもと若者のための支援アプローチ
- 🌀 日独の共通点
- 🌀 日独の違い
- 🌀 日本で学んだこと
- 🌀 日本の指導者のみなさんへ
- 🌀 ありがとうございましたーダンケ



# 日本とドイツにおける子どもの相対的貧困率の比較 (OECDによる調査、単位はパーセント)



# 日本とドイツにおける子どもと若者の貧困の実情

## 日本

### 貧困リスクが最も高い世帯:

- 🌀 ひとり親家庭 (50.8%)
- 🌀 特に母親が非正規雇用の母子家庭
- 🌀 就労者のいる社会給付受給世帯

## ドイツ

### 貧困リスクが最も高い世帯:

- 🌀 ひとり親家庭 (42%)
- 🌀 親が非正規雇用あるいは長期失業の世帯
- 🌀 移民の背景を持つ世帯
- 🌀 3人以上子どもがいる世帯



# 本セミナーにおける訪問先施設

## 群馬県プログラム

児童養護施設 希望館

群馬県こども未来部

群馬県中央児童相談所

NPO法人 フリースペース  
アリスの広場

国立赤城青少年交流の家

愛育乳児園

## 東京プログラム

国立青少年教育振興機構

NPO法人 青少年の居場所 Kiitos

NPO法人キッズドア

桜台こども食堂

川崎市子ども夢パーク

日本における子供と若者の貧困の  
現状について（文部科学省講義）

# 貧困状態にある子どもと若者のための支援アプローチ



- 🌀 **子どもの貧困対策の推進に関する法律（努力義務）**
  - 🌀 国と地方公共団体による施策
  - 🌀 NPOによる支援事業への一時的補助金
- 🌀 **義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保に関する法律（不登校）**
- 🌀 **ボランティアが多く活躍している（大学で専門教育を受けているにもかかわらず）**
- 🌀 **貧困を撲滅する場所としての学校**
  - 🌀 教育は未来への投資
  - 🌀 早期からキャリア教育を実施
  - 🌀 青少年教育施設での体験活動推進
- 🌀 **居場所**
  - 🌀 ありのままの姿でいることや失敗が許される場所
  - 🌀 無料／寄添い型の学習支援、食事支援
  - 🌀 地域全体で支援する
  - 🌀 不登校とそうでない子ども達が共に過ごせる場所の提供

# 日独の共通点

- 育った家庭環境 = 将来
  - 貧困世帯の大半がひとり親家庭
  - 公的支援を受ける際に必要な貧困状況の証明
  - 全人的かつ当事者の家族も含めた周囲を見据えた支援のアプローチ
  - 社会給付や支援を受けることによるスティグマ
- 教育は将来への投資
  - 柔軟性に欠ける教育制度 → さまざまな事業は学校を中心に補足的に行われている
- 行政と民間支援団体との連携
- ネットワークによる支援と子ども・若者参画型のアプローチ
- 福祉や社会教育の専門職に対する社会的評価が低い
- 社会福祉国家として担うべき事業の多くがボランティアによって支えられている
  - 財源を寄付金や外部資金に頼る運営構造



# 日独の違い

## 「子どもと若者の貧困」というテーマに関する重要度

- 法律と活動の根拠

## 福祉 vs. 青少年援助(教育・支援)

- 社会福祉・青少年教育職の専門職化の度合い

- 民間支援団体に交付される補助金制度

- 民間支援団体や若者の利益代表としての機能

- 児童虐待の査定と手続き

- 入所型支援施設における男女分離

## 教育制度

- 親による教育費の支出

- 学校教育—再トライ可能

- 不登校児童・生徒に対する支援制度

- 教育アプローチ





# 日本で学んだこと

## 地方公共団体にまで波及する国レベルでの貧困対策

- 子どもの貧困対策推進会議と第三者委員会によるチェック機能(群馬県)

## 地方自治体の子どもの権利に関する条例

- 市内各部局による施策が、子どもに優しい社会を実現するために役立っているかをチェックする第三者委員会の設置(川崎市)

## 居場所

- 「日々のプレッシャーをとりのぞく」一落ちるける空間を提供
- みんなが一緒の空間で過ごす
- 学童保育を補う居場所としての放課後子供教室
- 全人的視点に基づく学習支援

## 学歴を積むために復学に再びチャレンジできる

## 教員免許の更新制度



# 日本の指導者のみなさんへ

## 福祉の視点に立った支援制度から青少年援助(教育・支援)制度への移行

- 民間支援団体への補助金制度改革(継続的に施設運営費と人件費に対する補助金交付)
- 子ども・若者支援の専門職化をめぐる議論を活性化:特にNPO法人やその他の民間団体
- 利益代表としての機能強化、NPO等の利益を代弁する共通の声
- 要注意:ボランティアの投入は当然という前提で、社会福祉国家として本来国が担うべき事業がボランティア主体で行われている点

今回の交流事業に参加し、視野を広げる体験ができたことは、自分自身とそれぞれの仕事について熟考し振り返る良い機会となりました。今回、私たちがいただいたような機会を、日本の指導者のみなさまにも是非、体験していただきたいです!



# 心より感謝申し上げます

文部科学省 & 連邦家庭・高齢者・女性・青少年省

国立青少年教育振興機構

NIYEチーム：山村昭太さん & 中村匡寛さん

赤城チーム：横山直樹さん、松村純子所長、山下順子さん

ドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関 &  
ベルリン日独センター

すべての訪問先のみなさま

ホストファミリーのみなさま

通訳の岡本美枝さん

